

# 輸送路における放射線量率の測定地点

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



# 輸送路における放射線量率の測定結果

測定地点	当該地点を通過した輸送車両数 [台]		(参考) 当該地点の空間線量率 [ $\mu$ Sv/h]	(輸送車両通過時)		
		うち通過時に線量率の増加が観測されたもの [台] <sup>※1</sup>		追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [ $\mu$ Sv/h] <sup>※2</sup>	線量率の増加が観測された時間 (累積) [分] <sup>※2</sup>	追加被ばく線量 (累積) [ $\mu$ Sv]
①南相馬IC	20,289	757	0.10	0.03	103	0.03
②浪江IC <sup>※3</sup>	9,128	92	0.22	0.03	13	0.005
③大熊IC	18,377	728	0.23	0.05	80	0.01
④常磐双葉IC	11,259	2	0.72	0.01	0.33	0.00007

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値+標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

※3 ICにおける降車と乗車の輸送車両を対象としている。

## 輸送路における放射線量率の測定結果(2024年4月～2025年3月)

### <評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。